



目次

巻頭言： 利用者が作る附属図書館	小林 一	1
私の選んだこの一冊		
「ミツバチの会議 ーなぜ常に最良の意志決定ができるのかー」 トーマス・シーリー著	馬場 芳	3
「現代世界の戦争と平和」 栗原 優著	武田 元有	4
附属図書館の地域連携活動		
鳥取大学附属図書館の地域連携活動について	森田 正	5
ご存じですか？公共図書館資料の取寄サービス		7
読書ラリーについて		9
トピックス		10
附属図書館利用状況（最近5カ年）		12

巻頭言

利用者が作る附属図書館

小林 一

私は、平成15年から17年にかけて第24代の鳥取大学附属図書館長を努めました。今年度をもって定年退職しますので、鳥取大学と附属図書館への感謝の意を込めて寄稿させていただきます。

私が附属図書館長を務めたのは、ちょうど大学改革によって国立大学が法人化された時期でした。そのため、本学で国立大学法人法に基づいて新しい経営管理の確立に取り組むことになり、附属図書館においても

活動を行いました。ここでは、それらの取組を紹介し、併せて今後の附属図書館の発展に向けたメッセージを記すこととします。

大学附属図書館の利用者の大多数は学生であり、学生のニーズに対応した図書館作りが重要であることは論を待ちません。



本学においても学生の利用状況の把握やアンケート調査を踏まえ、ベストセラーコーナーの設置やブックハンティング等の新企画を実施してきました。折しも国立大学の法人化が検討されているさなか、大学附属図書館統計を眺めているとき、本学における学生1人当たり図書購入費が中四国地域の国立大学の中で最低水準にあることに気づかされました。放置してはおけないので、学生の学修環境整備の観点から、せめて授業料の1%水準にまで学生用図書費の引上を検討することにしました。

また、学会誌については、近年、紙媒体から電子媒体への切り替えが進み、電子ジャーナルの重要性が高まっています。こうした変化に対応して本学でも全学的な観点から紙媒体での学会紙調達の合理化を進め、電子ジャーナルの利用環境を充実することが求められていました。電子ジャーナルについては、市場が出版社による寡占状態にあることも影響して、本学教員の要望に応えた整備を行うには高額の調達費用を要する状態にありました。

さらに、附属図書館の運営経費については、学生用図書購入費を始めとして部局からの拠出に相当部分を依拠する状態にありました。そのため、附属図書館委員会を經由して毎年のように各部局に対し要請を行い、必要額を確保しなければならないことが運営上の問題となっていました。

国立大学法人制度の導入に際しては、従来からの国および文部科学省に強く依存した国立大学の体質を転換し、各大学が独立した法人格を持つことにより自律的な運営を確保することが狙いとされました。そのための手段として、民間的発想のマネジメ

ント手法の導入等の新しい大学運営が実施されることになりました。予算運営については、単年度主義に基づく旧来方式の見直しが行われ、各大学法人による弾力的な運用に道が開かれることになりました。

こうした環境変化に基づき本学の附属図書館が抱える上記の課題に対処するため、当時、小泉政権の下で政策スローガンとなっていた「三位一体改革」の用語を、本学の附属図書館における改革スローガンに援用して学長を筆頭とする大学執行部への働きかけを根気強く行いました。その結果、努力が報われて教育研究評議会や役員会での承認を得ることができ、平成17年度より年間予算として1億3千万円の学術図書資料費が一括計上されるようになりました。これにより附属図書館の計画的運営が円滑に行えるようになり、学生用図書購入費を引き上げ、電子ジャーナルの利用環境の整備を促進することができました。

以上は、本学附属図書館の長い歴史において、国立大学法人制度が導入される時期に経験した一コマです。附属図書館は、今後とも大学の学術活動の基盤としての役割を担い、学生、教職員と一体となって存続していきます。鳥取大学附属図書館が利用者の声を反映させ、大学構成員の英知を結集しながら、次世代に向けた挑戦を続けていくことを期待しています。

(こばやし はじめ :
総合メディア基盤センター長、農学部教授)
第24代附属図書館長(平成15年1月1日
～平成17年3月31日)



私の選んだこの一冊

トーマス・シーラー

『ミツバチの会議 —なぜ常に最良の意思決定ができるのか—』(築地書館)

馬場 芳

本書は、野生のセイヨウミツバチの群れが巣分かれ(分蜂)をする時に、一万匹ほどの個体がいかに民主的な意思決定プロセスを経て適切な住処を選択するのか、ということを行動生物学の立場から解き明かした本格的フィールド・サイエンスの手法をとっている。私がこの本を手にとったのは、経営学において意思決定という戦略の概念にたって考察するからであるが、何より、幼い頃に読んだファーブル昆虫記の中に登場するユニークな生態をもつハチ達への印象によるかもしれない。幼い頃、私は、活発な年長の友人達と野山で探索をし、よく虫達と一緒に帰宅をしていた。

晩春から初夏にかけてミツバチの巣穴が過密になると、若い女王蜂を育てて母群へと維持する3分の1の働きバチを除く1万匹ほどの集団が、別の女王蜂とともに飛び立つという分蜂が起きる。分蜂群はわずか30mほど移動して、木の枝にあごひげのように垂れ下がった蜂球を作り、その中心温度を34℃から36℃に保って数時間から数日を過ごす。その間、数百匹の家探しバチ—探索バチが、周囲70km²から巣の候補地を探索する。本書の主人公は、この探索バチであるが、分蜂群の中でも高齢に属する元採餌バチが、経験にもとづいて念入りに調査をする。探索バチは、大体150から400の容積の木空洞を発見すると、分蜂群に戻り、尻振りダンスで仲間へ向けて宣伝を行う。ダンスの時間は距離に比例し、巣の垂直面の真上に対する尻振りは太陽の方角をあらわ

すが、その力強いダンスに追従した他のミツバチが、その場所を突き止めに行き、独自に評価をする。そして満足すれば、分蜂群に戻って、その場所を支持する同じダンスを行う。こうして候補地が複数であっても、長い時間をかけてダンスバチ全員の一致による合意形成をもって一つの候補地が選ばれると、それから60秒ほどの間に蜂球全体がばらばらになって飛び立ち、空を無数のハチの羽音で満たす。コロニーを単位としたその光景と行動は、典麗とさえ思われる。

コーネル大学において学部長を務める著者は、会議中の意思決定の方法においてミツバチのやり方を想うという。ヒトの討論とミツバチの合意の違いについては、本書の最後のほうで述べられている。しかし、何よりもこの分野の研究現場においては想像に違わず、何時間、何日とそこにとどまり、自然界にあって思いがけず動き始めるであろう対象を観察し続け、微細に追究する—全体を通して、相当な集中力と情熱がうかがえた。どのように研究に取り組むかということについて考えさせられる一冊である。

(ばんば かおり :

地域学部教授 附属図書館委員)

○図書館所蔵

中央図書館開架 請求番号 486.7 : Mit

栗原 優『現代世界の戦争と平和』（ミネルヴァ書房）

武田 元有

周知のように今年 2015 年は太平洋戦争が終結して 70 年である。日本はこの 70 年、平和な時代を享受してきた。この単純な事実は、戦前 70 年の歴史と比較した場合、非常に重い意味をもってることが分かる。終戦から 70 年さかのぼると 1875 年であるが、日本はこの年、朝鮮と交戦している（江華島事件）。続いて日清戦争（1894 年）、日露戦争（1904 年）、第一次大戦（1914 年）と、ほぼ 10 年ごとに戦争を経験し、1930 年代に入ると、満州事変（1931 年）、日中戦争（1937 年）、張鼓峰事件（1938 年）、ノモンハン事件（1939 年）、太平洋戦争（1941 年）というように、恒常的に戦争状態にあった。こうしてみると、あらためて戦後 70 年の平和のありがたさが実感されるであろう。

ところで戦後の日本はどのようにして長期の平和を維持できたのであろうか。著者の指摘するように、これには大きく分けて 2 つの見方がある。第一は、日本が平和憲法（第 9 条）によって戦争を放棄してきたから、と考えるもの、第二は、日米安全保障条約によって駐留米軍が日本を守ってくれたから、と考えるものである。このうち第二の解釈は、過去 70 年間に於いて日本征服をたくらむ国家が存在した、ということ想定しており、冷戦時代にはなかでもソ連の侵攻が念頭に置かれていた。だが冷戦が崩壊してソ連機密文書の分析が進むなか、ソ連が日本の攻撃を検討していたことを示す資料はいまだに発見されていないという。ソ連にもともと日本を攻撃する意志が無かったとすれば、日本がソ連の攻撃を阻止できたのは駐留米軍のおかげである、という解釈も幻想になってしまう。

日本が平和を守ることができた真の理由を明らかにすることは難しいが、「戦争が発生しなかった原因」を考えてゆくには、むしろ逆に戦争は歴史上そもそもどうして発生したのかという、「戦争が発生した原因」を考えることが一つのヒントになる（その原因を特定し、解消に努めれば、将来的な戦争は予防しうるかもしれない）。本書は、第 I 部で現代世界における戦争の特質・傾向を統計的・数量的に分析した後、第 II 部では 20 世紀における三つの戦争（第一次世界大戦、第二次世界大戦、ベトナム戦争）を取り上げ、それぞれの原因を歴史的・実証的に検討するが、これらは日本における過去の戦争、今後の平和を考えてゆく上でも学ぶところが多いであろう。

本書の著者はドイツ現代史（ナチズム）の研究者として知られ、したがってこの書物は必ずしも著者の専攻領域に関するものではない。執筆の背景にあるのは平和憲法の改正に対する強い憂慮である。本書は 2007 年 6 月の出版であるが、その序文は「戦後 60 年」の平和の重みを示しつつ、当時の政権（第一次）の改憲志向を危惧している。だが、その後さらに平和の期間を更新して「戦後 70 年」となった今年、同じ政権（第三次）のもとで安全保障制度が大きく変化しようとしている。国際環境の変化を大義名分とする防衛政策の是非を考える上でも、手に取りたい一冊である。

（たけだ げんゆう）

教育センター准教授 附属図書館委員

○図書館所蔵

中央図書館開架 請求記号：319.8:Gen)

附属図書館の地域連携活動

鳥取大学附属図書館の地域連携活動について

森田 正

1. 概要

附属図書館は、鳥取大学の「知と実践の融合」の理念に基づき、国際・地域社会への貢献及び地域との融合を目標として、県内の大学・公共図書館と共に連携を図り、地域社会への貢献活動や公共図書館との連携をとおして利用者サービスの向上を図っています。

地域図書館との連携は、図書の相互貸借や講演会等の共同開催による鳥取県立図書館、鳥取市立図書館など各館ごとの連携と鳥取県大学図書館等協議会などの参加による連携があります。

① 公共図書館との連携

平成 14 年度から 18 年度には、鳥取県立図書館や鳥取市立図書館など公共図書館との相互協力協定を結び、相互貸借や講演会等の共同開催など多くの連携事業を行っています。特に、鳥取県立図書館や鳥取市立図書館の物流システムによる相互貸借サービスは、学生、教職員等へ無料で迅速に提供しています。申し込んだ資料が翌日または翌々日（休日をはさむ場合を除く）に大学図書館カウンターから貸出を受けられます。大学に所蔵が少ない一般書や小説等が迅速に利用できるサービスは全国でも例がありません。

また、地域住民に対して講演会や講習会も連携して実施しており、「地域の図書館レベルアップ貢献事業」（平成 19 年度～21 年度）、「鳥取県内図書館のお宝発掘事業—わが図書館自慢の資料展」（平成 22 年度～24 年度）、「ビジネス支援」、

「医療・健康情報」、「法情報」をテーマとして図書館利用講演会（平成 25 年度～27 年度）を開催しました。



25 年度に実施したビジネス支援講演会

② 大学図書館等との連携

平成 13 年度に発足した「鳥取県大学図書館等協議会」は、鳥取大学、鳥取環境大学、鳥取短期大学（今年度より、鳥取看護大学・鳥取短期大学）、米子高専の 4 機関で構成され、加盟館の構成員に対する図書館サービスについて検討を重ねています。



鳥取県図書館大会でのビブリオバトル

また、鳥取県図書館協会が主催する「鳥取県図書館大会」にも協議会として参加しており、平成 26 年度にはワークショップ

において「ビブリオバトル」を開催し、大変好評でした。

③ 館種を超えた連絡会議

平成17年度から鳥取大学、鳥取環境大学、鳥取県立図書館、鳥取市立図書館の実務者による「鳥取地区図書館実務者連絡会議」を年2回開催しています。お互いの利用者ニーズや図書館サービスの向上を目指して連携を深めています。



鳥取市立中央図書館での会議の様子

2. 今年度の地域連携活動

今年度の地域貢献事業や連携事業について報告いたします。

① 大学開放推進事業

1) 本年度の附属図書館地域連携事業として境港市民図書館と鳥取市立図書館と連携し、7月5日(境港市民会館大会議室)と11月7日(鳥取市立中央図書館多目的ホール)に「科学あそびを体験しよう」を開催しました。この講座は本学入学センターの森川准教授を講師に、地域の小学生に実験をとおして理科、科学に興味を持ってもらうこと、理科や科学、実験の本などへの興味から図書館に関心を持ってもらうことを目的に開催しました。参加者からは「とてもわかりやすく、子供たちも興味を持って参加できま

した」などの意見をいただきました。



「科学あそび」で盛り上がる小学生

2) 10月12日には大学生と地域住民を対象に、講演会「身近なトラブルを図書館で理解するー消費者問題を例としてー」を本学学生支援センターおよび鳥取県立図書館との共催で実施しました。講演会では本学地域学部藤田教授から「鳥取大学における消費者教育の必要性」と題して、消費者教育を大学教育の一環として位置づけ、学生が安心して大学生活を送れるようにサポートする必要性について講演をいただきました。つづいて、佐竹講師から「大学生に多い消費生活トラブル 契約編」と題して、ネット通販におけるトラブルや敷金返還問題、マルチ商法など具体的な事例についてわかりやすく講演をいただきました。最後に、いしかわ講師による「社会トラブルの多くは法律に解決糸口をみつけられる 法律資料の知識を得よう」と題して、法令集やデータベースの利用方法、トラブル解決に役立つ法律の本の紹介などの講演をいただき、参加者からも「大学における消費者教育の重要性がわかった」「『法の不知はこれを許さず』にドキッとして、法に興味

を持つことが必要だと思った」などの意見をいただきました。



消費者問題についての講演

② 鳥取県大学図書館等協議会

今年度は鳥取看護大学・鳥取短期大学付属図書館において開催しました。4月に開学した鳥取看護大学と本学医学図書館との連携についても協議しました。会議終了後、新しい鳥取看護大学図書館を見学しました。



鳥取看護大学・鳥取短期大学（倉吉市）で開催

③ 鳥取県図書館大会

鳥取県図書館協会（鳥取県内の公共図書館・大学図書館・学校図書館を中心に組織）が毎年開催している大会で、今年で21回目となる大会が7月27日に米子市で開催されました。

ノンフィクション作家の佐々涼子氏および鎌倉幸子氏の記念講演や事例発表、分科会など行われ、約300名の図書館関係者が参加しました。本学職員も協力スタッフとして運営に携わりました。

④ 鳥取地区図書館実務者連絡会議

今年度1回目は鳥取大学が当番館として8月21日に開催しました。会議では「今後の連携事業のあり方」について協議し、可能な限り今後も各館と連携した事業を実施することを確認しました。また、「図書館利用における障がいのある利用者への対応について」の各館の対応について情報交換を行いました。

（もりた ただし：図書館情報課統括司書）

附属図書館の地域連携活動

ご存知ですか？公共図書館資料の取寄サービス

地域図書館との連携により、公共図書館から資料の取寄せが可能となっています。特に、鳥取県立図書館からは迅速に取寄せできますので、大学図書館にない資料はご利用ください。

鳥取県立図書館

鳥取県立図書館の資料の借受申込みと受取りを、中央図書館、医学図書館カウンターで行えます。このサービスは鳥取大学の学生・教職員のみなさんが対象です。

■申込■ ★専用申込書に記入の上、大学カウンターまたはメール添付で申し込んでください

鳥取県立図書館資料借受申込書をカウンターへお持ちになるか、附属図書館ホームページからダウンロードして添付ファイルでお送り下さい。申込書はカウンターにも置いてあります。

*必ず鳥取県立図書館ホームページから資料の検索を行い、必要項目を全て記入して下さい。

*借受できるのは、検索の結果が”利用可能”となっている図書のみです。予約はできません。

■資料受取■

午前11:30までに申込まれた場合は翌日、それ以降の申込みは翌々日に資料が到着する予定です(申込日が土日祝日の場合は平日の午前中の申込となります)ので、到着予定日の4時以降にカウンターに受け取りに来て下さい。

*資料の受取りには、学生証または鳥取大学附属図書館利用者カードが必要です。

*貸出期間は、カウンターで受け取った日から2週間です。

*資料が附属図書館に到着してから1週間経過しても受取りに来られない場合は、県立図書館へ返却します。

*貸出の延長はできません。

■返却■

両図書館から取寄せた図書はカウンターへ返却してください。

鳥取市立図書館

鳥取市立図書館の資料の受取を、中央図書館カウンターで行えます。

このサービスは鳥取キャンパスの鳥取大学の学生・教職員のみなさんが対象です。

■申込■ ★申込は「鳥取市立図書館検索システム」で申し込んでください

鳥取市立図書館貸出カードをお持ちの方は、鳥取市立図書館ホームページから申し込みを行い、貸出可能な図書の「受取希望館」欄を「鳥取大学」としてください。

■資料受取■

申込み時に資料受取連絡を選択された方は、市立図書館から届出日の連絡が入りますので、カウンターに受け取りに来て下さい。

*資料の受取りには、「鳥取市立図書館貸出カード」が必要です。

■返却■

両図書館から取寄せた図書はカウンターへ返却ください。

その他の公共図書館

その他の公共図書館にある資料の取寄せは、カウンター職員にお尋ねください。時間がかかる場合があります。

鳥取県立図書館資料借受申込書

申込日: 年 月 日

氏名: _____ 所属(学号): _____
鳥取大学附属図書館利用番号

所属: _____ 経路名: _____

書名	請求番号	貸出サイン	封緘日	連絡日	貸出日	返却日	備考
_____	_____ / /	_____	_____	_____	_____	_____	_____
_____	_____ / /	_____	_____	_____	_____	_____	_____
_____	_____ / /	_____	_____	_____	_____	_____	_____

下記の事項を遵守しますので、上記資料の手配をお願いします。

1. 返却期限を守ります。返却期限を超過した場合に取扱いを変更します。
2. 返却は清潔にします。
3. 返却希望の場所・時間帯などの事項についての条件を扱います。
4. 借受料金は返却する際お返しはしません。
5. 鳥取県立図書館の利用規定を遵守します。

借受申込書に記入する。



「鳥取市立図書館検索システム」Web画面

読書ラリー開催中

中央図書館と医学図書館では、「鳥取大学附属図書館読書ラリー2015 -読書は力 あなたの世界を広げましょう-」を開催中です。

読書ラリーは、学生のみなさんが小説以外の本を読むきっかけを作り、専門分野以外の知識を習得するための読書を応援するイベントです。ご参加お待ちしております！

実施期間 2015.10.1-2016.1.15

対象 鳥取大学の学生のみなさん

スタート

図書館カウンターでエントリーしてスタンプカードを受け取る。



図書館の読書ラリー対象本を借りて読む

対象本

中央図書館：

2階の新書文庫コーナーなどの新書と選書

医学図書館：

2階の「読書ラリー対象図書コーナー」の本



コメントを書く

読んだ本の感想や紹介文を150字程度コメントカードに書く。



スタンプをもらう

図書館カウンターに「返却図書」、「コメントカード」、「スタンプカード」を提出して、「コメントカード」提出の確認スタンプを貰う。



ゴール！！

スタンプ5個で参加賞として

図書館オリジナルトートバッグ

をプレゼント。

先着200名様限定です。



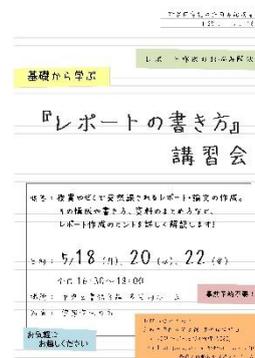
選考の上、素晴らしいコメントには「コメント賞」を授与し、豪華賞品を贈呈します。

トピックス

「レポートの書き方」講習会の開催

中央図書館では、5月18日、20日、22日に「レポートの書き方講習会」を開催し、合計100名が参加しました。

講習会では、レポートの正しい書き方から資料のまとめ方まで、レポート作成のヒントを詳しく解説しました。「組み立て方についてよくわかりました。」「今の時期レポート提出が増えてくるので助かりました。」などの感想が寄せられ、今後も利用者の意見を踏まえて実施していきます。



ポスター

図書館セミナー「歴史と芸術と医学」を開催

医学図書館では、7月31日に中根裕信先生（解剖学）を講師に、図書館セミナー「歴史と芸術と医学」を開催しました。このセミナーは、平成21年から開催し、今回で13回目となります。医学と歴史や芸術などのかかわりなど幅広い内容で、毎回好評です。

多くの学生さんに、人体や医学だけでなく、人体および医学に関わる幅広い教養を身に付けていただく機会になるよう今後も継続して実施していきます。



図書館セミナーの様子

※参考文献：中根裕信・他：医学教育の起点としての図書館.大学教育研究年報. 18：45-50.2013.

ブックハンティングを開催

中央図書館では、8月11日に「本の学校 今井ブックセンター」にて実施し、13名の参加者がありました。また、医学図書館では6月11日および10月13日に同じく「本の学校 今井ブックセンター」にて実施し、延べ7名の参加者がありました。この行事は学生が実際に書店へ足を運び、学生にとって必要な図書を選ぶものです。学生からは、「感動的な本があるのでみんなに読んでもらいたい」等の声をいただきました。



「本の学校 今井ブックセンター」（米子市）でのブックハンティングの様子

ビブリオバトル in 鳥取大学の開催



ビブリオバトルの様子

中央図書館では、5月2日および10月10日に「ビブリオバトル in 鳥取大学」を附属図書館1階ホールで開催しました。

10月開催のビブリオバトル大会は、山陰地区決戦大会、首都決戦（全国大会）出場につながる予選会で、4名の学生によりバトルが展開されました。風紋祭のイベントとして開催し、41名の地域住民の方を含む多数の方が参加しました。チャンプ本には地域学部1年松岡将君が紹介した、川崎昌平著「自殺しないための99の方法」が選ばれました。松岡君は10月24日の山陰地区決戦大会（松江市カラコロ工房にて開催）へ出場しましたが、惜しくも全国大会への切符を逃しました。

インターンシップ実習生を受入

中央図書館では、平成27年8月31日～9月4日までの5日間、鳥取短期大学からインターンシップ実習生を受け入れました。

実習生は、カウンター業務、図書、雑誌等の目録業務、文献複写業務を体験しました。最終日には2階ホールに図書館報で紹介した「私の選んだこの1冊」展示コーナーの作成や10月から実施する読書ラリーの作業にも協力してもらいました。様々な図書館業務を実習の中で理解してもらい、最後まで積極的な姿勢で実習をしていただきました。



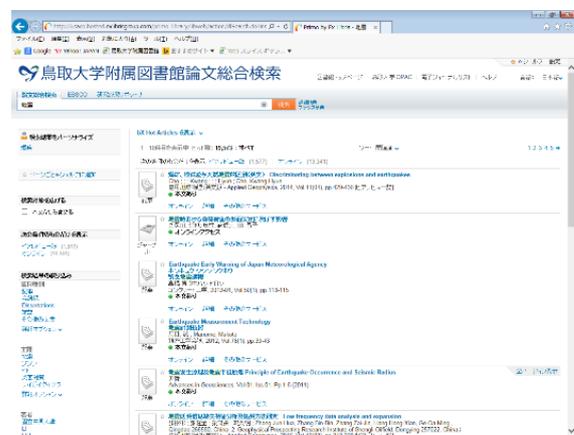
展示作業中の実習生

論文総合検索（Primo）を導入

附属図書館トップページの資料検索窓に「論文総合検索」が加わりました。

これはCiNii ArticlesやWeb of Science, Pubmedなど各種論文データベースや出版社の電子ジャーナルサイトの情報を一括で検索できるツールです。

何を調べていいのかわからない検索初心者の方から、普段使わないデータベースを使ってみたい方まで利用できる便利なツールです。



論文総合検索の画面

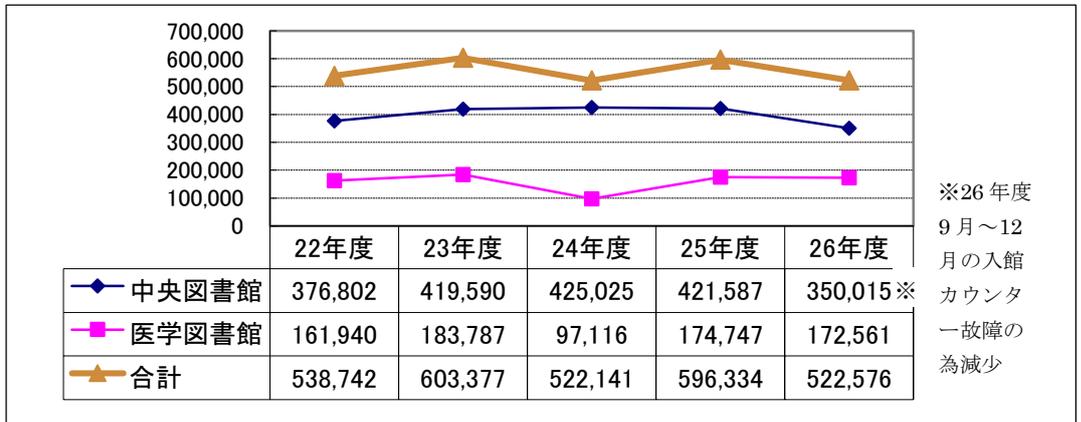
附属図書館利用状況（最近5力年）

年度別開館日

	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
中央図書館	323日	343日	333日	340日	333日
医学図書館	331日	335日	*295日	327日	329日

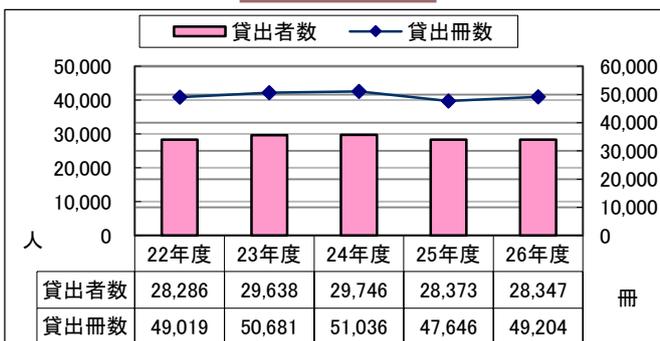
*耐震改修の為、仮設図書館で運用

年度別入館者

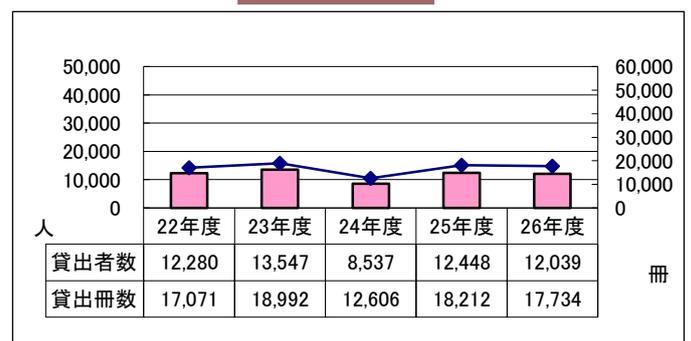


年度別貸出者数・冊数

中央図書館

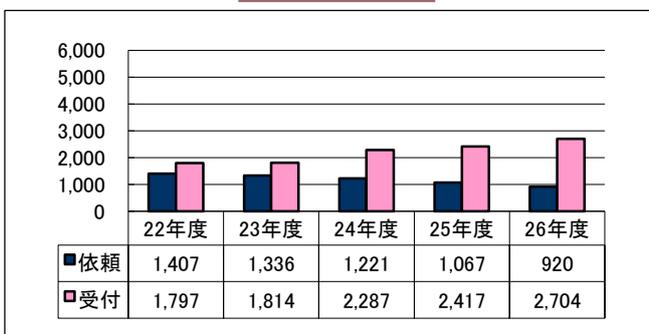


医学図書館

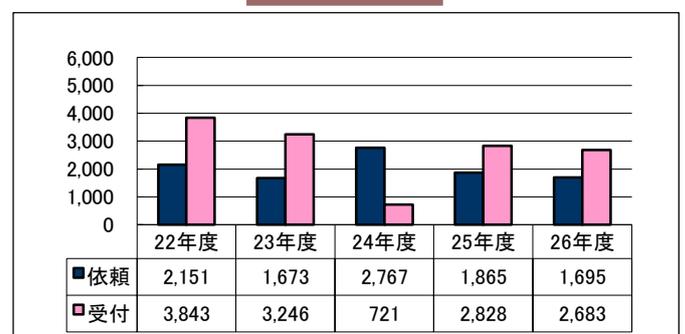


文献複写学外依頼・受付件数

中央図書館



医学図書館



鳥取大学附属図書館報 第126号（2015年11月）

〔編集・発行〕 鳥取大学附属図書館

〒680-8554 鳥取市湖山町南4丁目101番地 [TEL] (0857)31-6728 [FAX] (0857)28-6346

[E-Mail] tsoyokan-p@adm.tottori-u.ac.jp [ホームページ] <http://www.lib.tottori-u.ac.jp/>

Copyright (C) 鳥取大学附属図書館 【本館報について一切の無断転載を禁止します】

